

曲が僕には暗すぎる

一月二十三日 木曜日

曲が僕には暗すぎる

兄貴は少し起きるのが遅かったので、今朝は、僕が先に家を出た。
この頃、兄貴は、夜更かしして、大学の受験勉強。

二時間目の図工は石膏のスケッチで、
これが最後の時間だけど、僕はもう、
この前の時間で書き終わっていた。

友達が、僕のスケッチを見て言う、

「この胸の脹らみはよく書けている、
スケベー！かし、まあ、他は、

これは男か女かわからん絵だね。

だいたい、想像力が動くようだなあ、
なにか、思い込んでいるんじゃないか、
へへへ。」

と、冷やかす。

先生、見て、曰く、

「裏に、もういっちょ、
書けや、うまいから。」

おそらく、先生は、

「君の絵は、石膏を写実したものでない。
炭で作った彫刻を写しているみたいだ。

もう少し、明るく書き直して見ること。
と言う意味で、言われたのだと思った。

そこで、裏面に書く。

